



特別  
~12  
5107



平治物語卷第一目錄

一 信賴信西不快此事

一 此がらうとてあんせいとわろかほく議れる事

一 三條殿へ放向付信西れ高く所立執事

一 信西れ子息頼房れり付除目れり并源光上洛此事

一 あんせい書乳由來并南都為付さしご此事

一 伝西れ首突控之事付大橋を渡ぐ門よりけり此事

一 唐僧來朝此事

一 叡山物語此事

一 六波羅より紀列へ馬立せりて事

一 光頼の事内事并許由事付清盛六波羅より上洛此事

- 一 信西（西の信）の子息を討たふなりけり事
- 一 院（院）の清所（清所）仁和寺（仁和寺）に清幸（清幸）事
- 一 源氏勢（源氏勢）そりけり事



平治物語巻第一

おのゝりし事いせいに不快（不快）事

ひろおれもいんえれが三皇五帝（三皇五帝）の國をたすめ。四兵（四兵）八元（八元）の民  
とむつる。管見（管見）をうらまのを見て。官（官）は假（假）の才（才）をうらみ。て  
祿（祿）をうらみ。あも。君臣（君臣）を携（携）り。官（官）とさる。長（長）とせ。さし。人  
かり。織（織）をうらみ。何（何）と。か。り。し。成（成）とせ。ひ。つ。ゆ。ら。う。後  
む。して。化（化）と。ま。り。あ。ら。う。ゆ。は。舟（舟）航（航）れ。航（航）と。わ。ら。う。り  
必（必）く。椳（椳）楫（楫）れ。こ。う。と。かり。こ。う。と。か。れ。つ。つ。も。代（代）志（志）れ。く。い。必（必）く  
羽（羽）翻（翻）れ。用（用）ふ。ら。帝（帝）王（王）の。國（國）を。た。む。む。ら。う。ゆ。ら。う。む。む。こ。う。さ。る。う  
ひ。の。れ。た。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。國（國）の。ま。り。か。ら。う。む。む。と。良（良）を  
す。つ。位（位）使（使）其（其）人（人）と。得（得）る。何（何）に。天下（天下）と。あ。つ。つ。各（各）ま。り。と。ん。く。事（事）を。り。  
古（古）人（人）より。し。よ。事（事）を。ま。り。と。者（者）の。人（人）を。賞（賞）する。和（和）漢（漢）兩（兩）約（約）



久遠三位もそのついでに是、近東司考人れうと名  
 宮司幸相中将も此書、くんびり御書、けつとごう  
 よ二三とあるよるれりて、幸二十七めで、中納言右  
 侍書はつれり、五人の妻婿也、もつれせうとて、  
 折よ丸人よおつて、いしものれい、のせうと、おん、  
 官家、かたよあ、ごも、も、む、わ、せ、ご、の、も、  
 也、一、た、た、あ、ご、ご、を、後、て、又、ご、大、将、よ、れ、  
 と、て、け、ご、丸、を、お、つ、け、な、あ、ご、も、ご、ご、  
 なる、か、ご、あ、ご、た、ご、の、を、お、つ、け、な、あ、ご、  
 安孫山もらえたり、能柳れい、ご、ご、ご、ご、ご、  
 花れ、ご、ご、か、ご、り、け、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 山れ、井、の、三、位、采、頼、ご、八、代、れ、板、流、ご、ら、ご、

まい、ご、あ、ご、流、れ、は、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 ろ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 徳、の、よ、う、の、ご、ご、丸、流、百、丸、よ、ご、ご、ご、  
 ろ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 よ、よ、ご、保、元、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 ま、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 し、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 ひ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 世、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 れ、二、朝、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 内、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 ろ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、

一兩年の内よきうひついで遷幸しせむ。外郎てうく  
 あり大極殿を樂院よりハせうちうきう朝所り  
 いらまで花れあられ電れこぶれり人成風花功幸  
 とふどして不旨よりのつを民れつひときく團れつ丹  
 へもあうりたり内宴とまふれせりえく後う遷とまじ  
 御幸夢孫れあそびだりよあまきくあらりかると九重の  
 をしきしつとらむとあもれ礼法わつさうてしとまぬ  
 保元三年八月十一日ざよ清後とすけらきぬひと清子の  
 又よゆつろとせぬつ二条院をせぬき九位ありん  
 位も強くとあつてとよきもあらあまもるひく斗也  
 又信賴卿れとあひもかいたよくあつてあてかこさう  
 ぬう人もあま六兩雄ハみとあそむるさうとつうるとん

酒を二人れむ入うりせん。其中あてして。強よあましく  
 不決れうやまきり。信為ハ信賴とん分格とひひの  
 天下ともあやぬり。團あともみこんさう仁すくあまき  
 へん。さうしあうりやとあ。南河あうりれううん  
 さうよんれむもさうかひもさむる。あまきと合じりあまき  
 へんともあしけらあてあまの居り。信賴も赤らぬさ  
 へれもあまのい入道我とつんてうととじとつんあめれ  
 あてしと思ひくたぬ。あうりつうととてうりして。うし那  
 りんとぞあまのけり。信為よ向て。よあまは海きうりさふ  
 信賴ハ大將とあうりつうあまもあ代は花れあまあ  
 ぎれとあ。あまうりあまうりあまうりあまうりあま  
 へせられぬ。信為とひせ中とあてとあひくしてとあ

けむ。信頼をとりて将あり。あまたの兵をくひりて  
し君の清まつり。いさむらひのくはるる。あまたの陰謀  
のゆゑあまたのまじよ天れ。いさむらひのくはるる。あ  
またの世に乱れ。いさむらひのくはるる。あまたの世に  
あまたの大地をあらう。白河流の大将よ。あまたの  
なり。いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
孫に中納言を成成と。いさむらひのくはるる。あまたの  
まじよ。信頼をとりて。あまたの大地をあらう。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
あまたのまじよ。あまたの大地をあらう。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの

目。あまたのまじよ。あまたの大地をあらう。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
あまたのまじよ。あまたの大地をあらう。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの  
いさむらひのくはるる。あまたの世に。あまたの

也。天氣他よしかなり。おまう島へみらり入り道くらん  
 だんよかしけるゆふあせりふく。なせらふあゆみれのみ  
 し事ぶ。はねの所<sup>トコ</sup>あししむもろしむせむら伏見<sup>フシ</sup>の源  
 中<sup>ナカ</sup>船<sup>ふね</sup>の舟<sup>ふね</sup>仲<sup>なつ</sup>郷<sup>ごう</sup>ありのらふ。の立<sup>た</sup>所<sup>ところ</sup>より  
 居て。まにたりと揚<sup>あ</sup>るあしらふらあ。ひん  
 ぐ武<sup>ぶ</sup>藝<sup>ぎ</sup>よりいりかあせられた。これらうれうせんせ  
 いどうしまんしたるまぞあふん斗<sup>た</sup>れ











三條殿發向并信西せんせいの宿所しゆくしょや入拂事いりばき

去程に於てより同九月廿九日教子にうつりよたるなり  
らしきと大將として其後五百いほひ入院に於て三條殿  
へてせしむるに口をきりて右京の御書にりまぐり年  
法にすむるにうつりよるまにせしむるにりまぐり  
きしむるにりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり  
したるお東國の御へてゆかり下りしとせしむるに  
たしむるにりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり  
ておしむるにりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり  
きしむるにりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり  
とくはくしむるにりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり  
るふの上かみの御書にりまぐりしけりりるるにりまぐりしけり

ぞとてまかりける。たかよりうらもろやとととんとしすま  
まのとうせんごた右よおらこもて大用へ入まのうせ。一かんはは  
ておよしとておのちもての式に於ておまじり。用務  
に別なすまきひちりこして。君とておまじり。おまこ  
の志げあり。保元元年に於て。まゝに於て仁和寺に於て  
るんやうしりて。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
二代の君とておまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
けたり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
人づかひに於て。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。  
おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。おまじり。





信西の子息頼房は、降参の并、西海の上流の事  
 去程に少羽の入るる人せいの子息五人をのりせし所。ちりちり  
 し新宰相のなり。次男攝摩は中将成なり。権右右衛門  
 負なり。異流は少將長なり。志願のもまをたり也。上卿の  
 花山院大御上り。てまき。城の八荒人右衛門成なりと  
 ぞや。去程は左政大臣右大臣内大臣を公の系南流  
 ひろく。せんごゝて信西の子息をせしねらるるに。攝摩は  
 物なりなり。太宰大貳法盛のしこなきはりや。はらた  
 せうろとく。六波羅へめりらきたり。そをせんじく。内裏よ  
 りまされ。い百をこれい力をよがぐ。あられなり。けうせお友  
 坂上の子成のし。成なり。しをく。内裏へあつたれ。ハ  
 キつぬへ。さ子相。あ。そ。か。ね成。あ。わ。つ。を。さ。う。の。権。右。中。右。



せよよび付らきてはつらつら西原をまてしりんとてしき  
 けりかきり養平うす秋あつぎや也其よあべ野までるれり  
 けりあつて何んもね入てわにわつめくこころしするよ  
 ねやあつこころあひまれのさびあつてちこつられけりひ  
 とつよんれはらるあよよそ大まれをぬたはらわらつ公その  
 比はた大つてれりまけつらあつてあつてはあよ  
 てしきよはけりこころのよそまれの君と名とたをんこ  
 ねりやあひのけつらあつてあつてあつてあつてあつて  
 せよよあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 とつよんれはらるあよよそ大まれをぬたはらわらつ公その  
 比はた大つてれりまけつらあつてあつてあつてあつてあつて  
 てしきよはけりこころのよそまれの君と名とたをんこ  
 ねりやあひのけつらあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 とつよんれはらるあよよそ大まれをぬたはらわらつ公その  
 比はた大つてれりまけつらあつてあつてあつてあつてあつて





信西もあつた由來并南都むられの付らこのゆ

と福よひらけり入道とありひらきとあれはひとどういふ  
あつらひなり。はるんせいと南都れとせと門れとてい  
しつひらけり子也。大勢とせとせと也と入らまじ  
と代よあつらせとて。るん宿よとせとせと日向ちとらなり  
とく。何とせと法前とくもつれけり。おあしけらおる法  
所へあつととくびくはつらとくよ。びん水よめんさつとつ  
すれ首えんれまよのかりてせとくもとて。日向ちとらなり  
あつれぬとくもくれとよとく。慈野へありなり。日向ちとら  
れ清おとく。相人よひわひなり。とらなりとくもつとつと  
いり。清つては徳るれと人つおせしすれらびんれとてい  
ひく。あふ今とてあふとていふとていふとていふとていふとて

しつとていふとていふとていふとていふとていふとて  
つとていふとていふとていふとていふとていふとて  
あつていふとていふとていふとていふとていふとて  
七旬よあつとていふとていふとていふとていふとて  
へあり。あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
うとていふとていふとていふとていふとていふとて  
とれ。あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
也。あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
子とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
格とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
野とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



けり。と語り。あひつゝおぼれは着所きやくしょをなごんらうりき候  
 の。も若菜門わがなのうゑたるれゝあれひつひ。入るあか  
 清一門せいいつのりぬえふのけわし。せしめしけたま  
 づらふ。其のうゝし事ゆつ輪りんとてあへぬり。あしき  
 した。ひらふはさし。あさきしてあかりんとれたるひ。  
 めんぢうくゆりたり。春日かすがひのれねくさく。れさうぢ  
 押入おしりなり。ひらふ家いへのゆゝ。ゆゑれねくさく。  
 入道いんどうよ。ひらふ。さし。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 もゆらう。ゆらふ。ゆらふ。ゆらふ。ゆらふ。ゆらふ。ゆらふ。  
 あさきは。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 けしんけしんよ。ひらふ。さし。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 とあさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 をかり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 けり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 る。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 右のみぎあさき。右清門せいもんのせうなり。ひらふ。あさき。あさき。  
 れのひだりあさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 をら。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 けら。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 いて。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 あり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。

をかり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 けり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 る。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 右のみぎあさき。右清門せいもんのせうなり。ひらふ。あさき。あさき。  
 れのひだりあさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 をら。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 けら。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 いて。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。  
 あり。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。



信西此首安良松乃車 大福をりて獄門はうをらうの

去初は舎人成さし月づく都へ詢りけらる。さういひて安良の

紀伊の二位の足せともんえん。しるまゝを引て詢りて

よ。出雲の前目光と五十を誇りて。信西の東と

はねまふ。本幅おしてひあひ。さういひていん志の

をむ。お伏せてこひさる。さういひてめいさうと云はれた。終

よ。あのまゝにぞりけら。すまらけ男とほらにさういひ

初。ゆゑにしくつらさういひてはあま。おきくさういひと

志ゆまばすあうらりけら。てそれ。さういひてめいさうと云は

る。さういひてさういひ。さういひてそれ。さういひてめいさうと

はや。さういひてさういひ。さういひてそれ。さういひてめいさうと

と同車して。光泰の省所神樂をとり向て。びらびと





唐僧来朝の事

去程よのさよめ二位とり。紀伊のさけりりてくづらご  
 おるれりるなり園ぐじしとあやハナナクくりよ三位よ叙  
 し。やうそあぢ二位とて紀伊の二位とそりける。あんせ  
 いら妻室としかり。あまねねさかになうそくあり  
 て生別れ歡喜とてとすすめあ。其ゆへんあ二  
 年た冬この比も別れせんらうは里。然野山よぎんけ  
 るしよ。其比るられ山よたうそくあ。あま淡海沙門  
 と云ふあそく異園とく我げあまてとてとて。生力  
 此歡喜をねがまふんしと云をね。天よあひひく  
 一ふ目れるさくたうとあ。ふ目よ敷しけら。あんち生力  
 此歡喜とあまの舞とあ。日域よひて。形ら山と云

三ノ巻一

三ノ巻一

所はたしきしきと云。天はちぢんをたけりてとつれおん  
 とてきてたけりてとてせよ也。はまはひりてとつら  
 て。唐僧よりまればいひ。は前まのり和尚くといひて  
 唐僧のまの語とてとていひる。つるもはたきつる  
 しくせしと。まんせい末座は候けり。禄加は法設除  
 津<sup>しん</sup>て来てつらとていひ。唐僧いづくたよあて。松  
 破<sup>は</sup>戒<sup>けい</sup>設<sup>じやう</sup>除<sup>じゆ</sup>大<sup>だい</sup>精<sup>しやう</sup>とてありとていひ。こまも。梅<sup>ばい</sup>唐<sup>たう</sup>僧<sup>そう</sup>まん  
 せいりてとていひ。才<sup>さい</sup>学<sup>がく</sup>ははつるもとていひ。異  
 国<sup>こく</sup>のめとていひ。またり。まんごんは長<sup>ちやう</sup>安<sup>あん</sup>城<sup>じやう</sup>なり。天<sup>てん</sup>竺<sup>ぢく</sup>とていひ  
 大<sup>だい</sup>城<sup>じやう</sup>の。何<sup>なに</sup>美<sup>び</sup>田<sup>でん</sup>とていひ。十<sup>じゆ</sup>美<sup>び</sup>とていひ。こまも。愛<sup>あい</sup>出<sup>しゅつ</sup>すと  
 云<sup>いひ</sup>寺<sup>じ</sup>つづよの。天<sup>てん</sup>竺<sup>ぢく</sup>よりあるまの七百<sup>しちひやく</sup>里<sup>り</sup>。白<sup>はく</sup>樂<sup>らく</sup>元<sup>げん</sup>れ  
 世<sup>せい</sup>とていひ。おとつとていひ。たつとていひ。おんいひ  
 じやうとていひ。おんいひ。つるもとていひ。天<sup>てん</sup>竺<sup>ぢく</sup>とていひ。ま  
 うり。是<sup>ぜ</sup>とていひ。人<sup>にん</sup>善<sup>ぜん</sup>とていひ。はつとていひ。まらふとていひ。久  
 延<sup>くえん</sup>とていひ。女<sup>にょ</sup>もつとていひ。はつとていひ。礼<sup>らい</sup>樹<sup>じゆ</sup>とていひ。まらふとていひ。二十<sup>じふ</sup>年<sup>ねん</sup>  
 下<sup>か</sup>とていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>とていひ。かていひ。まらふとていひ。食<sup>しょく</sup>  
 人<sup>にん</sup>醉<sup>すい</sup>事<sup>じ</sup>百<sup>ひやく</sup>日<sup>にち</sup>。其<sup>その</sup>あちり。西<sup>せい</sup>母<sup>ぼ</sup>がもにあり。長<sup>ちやう</sup>良<sup>りやう</sup>園<sup>えん</sup>  
 とていひ。はつとていひ。城<sup>じやう</sup>の。まらふとていひ。二百<sup>にひやく</sup>里<sup>り</sup>也<sup>なり</sup>。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>の  
 て。鉄<sup>てつ</sup>の馬<sup>ば</sup>。腦<sup>のう</sup>の塔<sup>たか</sup>あり。のたつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>の  
 まんまも。やま。回<sup>わい</sup>の。てん。花<sup>はな</sup>の。まらふ。和<sup>わ</sup>音<sup>おん</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 佛<sup>ぶつ</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 考<sup>かう</sup>とていひ。云<sup>いひ</sup>本<sup>ほん</sup>あり。の。まらふ。つとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 人<sup>にん</sup>不<sup>ふ</sup>老<sup>らう</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。西山<sup>せいざん</sup>の。波<sup>は</sup>珠<sup>しゆ</sup>とていひ。云<sup>いひ</sup>中<sup>ちゆう</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 よろく。たつとていひ。はつとていひ。佛<sup>ぶつ</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>

じやうとていひ。おんいひ。つるもとていひ。天<sup>てん</sup>竺<sup>ぢく</sup>とていひ。ま  
 うり。是<sup>ぜ</sup>とていひ。人<sup>にん</sup>善<sup>ぜん</sup>とていひ。はつとていひ。まらふとていひ。久  
 延<sup>くえん</sup>とていひ。女<sup>にょ</sup>もつとていひ。はつとていひ。礼<sup>らい</sup>樹<sup>じゆ</sup>とていひ。まらふとていひ。二十<sup>じふ</sup>年<sup>ねん</sup>  
 下<sup>か</sup>とていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>とていひ。かていひ。まらふとていひ。食<sup>しょく</sup>  
 人<sup>にん</sup>醉<sup>すい</sup>事<sup>じ</sup>百<sup>ひやく</sup>日<sup>にち</sup>。其<sup>その</sup>あちり。西<sup>せい</sup>母<sup>ぼ</sup>がもにあり。長<sup>ちやう</sup>良<sup>りやう</sup>園<sup>えん</sup>  
 とていひ。はつとていひ。城<sup>じやう</sup>の。まらふとていひ。二百<sup>にひやく</sup>里<sup>り</sup>也<sup>なり</sup>。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>の  
 て。鉄<sup>てつ</sup>の馬<sup>ば</sup>。腦<sup>のう</sup>の塔<sup>たか</sup>あり。のたつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>の  
 まんまも。やま。回<sup>わい</sup>の。てん。花<sup>はな</sup>の。まらふ。和<sup>わ</sup>音<sup>おん</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 佛<sup>ぶつ</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 考<sup>かう</sup>とていひ。云<sup>いひ</sup>本<sup>ほん</sup>あり。の。まらふ。つとていひ。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 人<sup>にん</sup>不<sup>ふ</sup>老<sup>らう</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。西山<sup>せいざん</sup>の。波<sup>は</sup>珠<sup>しゆ</sup>とていひ。云<sup>いひ</sup>中<sup>ちゆう</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>  
 よろく。たつとていひ。はつとていひ。佛<sup>ぶつ</sup>の。はつとていひ。はつとていひ。はつとていひ。花<sup>はな</sup>

長山よ三ぢうれきとわらふのあみれ木とれじ人ちまに  
 いづらあまれをけりしちちて道ふものふはしとり  
 執火翠をあんせつば。四方れらうらうらよあづり。まじま  
 う書を讀しつ。天人袖といはる人。唐れ大家はとまの  
 かりあして。天下をたさしほを相ありし。ちちくよこい  
 けまじ。唐僧わあ。りりつまほゆめが。れあ。り。ま。あ。り  
 てか。せ。は。つ。し。ん。い。の。い。り。り。つ。ま。い。れ。國。れ。ま。あ。す。な。ま。き  
 と。と。ま。き。ん。た。り。し。も。わ。り。ん。ま。ら。ん。と。い。で。ん。ぢ。ん  
 あん。う。う。あ。ん。百。さ。い。り。あ。り。て。五。六。の。年。あ。ん  
 わ。い。こ。う。り。ん。人。り。下。義。民。乃。り。か。る。あ。あ。こ。し。ん  
 ま。と。あ。り。い。あ。あ。が。う。と。こ。い。ん。ま。ま。こ。と。我。ま。や。う。ぢ。ん。れ。観  
 ぞん。を。れ。り。こ。と。ま。ら。ん。と。天。れ。ま。が。ん。と。う。う。ま。り。ま。り

と。ま。ま。と。い。た。ま。う。な。ん。ぢ。う。す。あ。り。ち。ち。あ。う。ま。ら。ん。れ。ま。ん。と。ん  
 あり。わ。ら。ん。じ。あ。し。わ。い。て。ま。ん。せ。い。ま。三。な。ら。う。し  
 ま。あ。く。れ。い。天。出。物。を。し。て。げ。い。う。れ。あ。ま。ん。せ。ら。わ。あ  
 り。い。ん。ま。ま。の。い。あ。ま。い。な。ま。じ。ま。あ。ま。り。し。つ。ま。は。ま  
 え。と。け。い。あ。あ。つ。あ。う。は。奉。り。ん。く。み。あ。あ。ま。ま。れ。あ  
 ひ。な。な。ま。あ。げ。り。ま





又山とれかりの事

去ゆる保元多ん年れ春のころは日暮又山は清幸あふ山  
 門の火師あもぞんちやうれぬそくごとも名字とほけうの  
 あげらよ。大流丸公あけ才字とくしんそやちうせん我  
 山れあうそといはくもさうく名字とまうあつれい  
 びと。一周よりそれ法皇元年徳野とて。信西うさこ  
 け才字とあつりのうら。そそそやちうあつらんとてち  
 しあうれたれば清前よりあつてし。あつら。あつたれとれあ  
 せんちやうれをそくれ中に。勢ひまうらうらうてくあ  
 向あ。是いつみしはうらひあま。せんきこし。止  
 け弟四美いんたり。あう人が大師せんちやうれ時ねうり何  
 まじ。そを願うまう。ねあつていし。あつら。たしあつた





此五三すのありと。きんせいにし。むらうよ。うらうらうと。さ  
 こりかう。きんせいにし。むらうよ。うらうらうと。さ  
 め。平治元年。我と。うらうらうらう。むらうらう。平治元年。我と。  
 うらうらうと。さ。きんせいにし。むらうよ。うらうらうと。さ  
 うきへ。今日。我身。せめと。うらうらう。むらうらう。平治元年。我と。



六波羅も紀勢へも馬を立らる事

去程ふ十日れあつた。六波羅より立らる馬。さうりあが着  
まゝおひつゝたり。清盛いふそとさひぬへ。去あつた。九日  
紀三條へ入らり入て。清所告る。拂ひぬ。少納言  
入るれ。志申す。亦もや。入拂れぬ。是は右衛門のり。あ。た。ら  
ぬ。う。あ。を。あ。ひ。か。つ。ひ。て。當家とわら。か。し。や。ん。の。え  
かりし。こ。お。け。け。あ。つ。り。ひ。と。せ。は。清盛い。そ。下。向。ま  
さ。う。是。ま。て。海。つ。く。さ。ん。け。い。と。さ。さ。ん。も。ひ。ね。也。い。か。ど  
を。と。い。ぬ。も。い。か。左。衛。門。を。志。け。盛。在。野。う。い。け。い。を。を  
ひ。だ。う。あ。ん。と。ん。れ。清。さ。せ。い。と。こ。さ。ら。め。其。上。君。さ。わ。く  
ち。ん。よ。ら。め。ら。さ。さ。せ。ぬ。ゆ。也。い。う。そ。く。長。古。と。て。是。を  
ま。く。い。た。と。ま。う。さ。う。ん。新。ハ。兆。後。と。い。ひ。ま。い。何。う。ら。う。い。

い。あ。い。こ。み。清。下。向。あ。つ。て。い。ち。ち。れ。れ。の。皆。い。後。よ。を  
用。け。ぬ。う。程。よ。あ。く。て。ま。い。じ。の。さ。ぬ。は。き。ん。と。う。物。の  
を。れ。一。領。も。な。り。か。と。い。つ。と。ま。い。か。い。な。け。ぬ。あ。ぬ。ま。う。  
こ。れ。も。家。貞。あ。い。つ。と。ぬ。合。と。を。よ。か。せ。たり。し。と。あ。ま。く  
五。十。口。も。う。れ。ぬ。の。五。十。う。れ。矢。其。外。お。れ。え。た。と。あ。か。て  
ち。う。う。い。う。か。い。た。ま。い。ハ。竹。切。中。よ。う。と。清。つ。く。入。ぬ。り。を  
ま。い。さ。し。り。ち。五。十。強。れ。う。と。あ。ま。り。や。う。と。あ。貞。の。あ。い。け。の  
ゆ。ひ。れ。い。こ。ま。い。あ。い。の。り。の。い。ひ。た。と。た。り。い。ん。い。は。ん  
大。将。軍。よ。は。り。入。る。の。の。い。う。こ。そ。よ。う。い。た。れ。と。せ。は。い。あ。ひ  
た。あ。つ。さ。う。名。り。あ。い。そ。う。い。け。う。熱。野。れ。別。あ。ぬ。ん。こ。う。が  
同。さ。い。あ。い。け。う。は。け。う。い。と。ま。ぬ。ハ。兵。二。十。騎。を。う。ゆ。あ。ま。い。ん。れ  
つ。い。の。志。を。三。十。と。い。ま。い。ん。と。ま。い。け。い。か。あ。い。物。百。と。い。う。

よかりあつゝ西海を三千餘騎とてあるがよるゝやまを  
 其の清盛に無勢とて大せよあてうゝ事いひのこゝじね  
 ひなまもつるはより西國からりせよのふかして。夜日よ朝  
 を入るやと乃ぬひまけしものしひてしきれけつゝそれとさよ  
 てひた。事起引せはらゝあゝ南原たひられり。法皇(院)宮  
 口んゝとれが下し。却て朝敵とぬえんれいゝうゝやとに  
 むああゝゝ。あせゝとつゝを擧とらひのほひれぬ也あゝあ  
 り世初れとたあゝと飛せゝを擧とらひとてけいゝうゝとて  
 しにらりしにまゝゝゝゝゝゝゝ代の名も海より入され。何と  
 らあ家貞とらぬ。執後がゝと大波飛れ清(門)とてさゝさか  
 ばはるゝとあらん。うゝせは下しせ。清盛もさゝうゝと  
 とゝとて引越せ。大将いぎを清盛に上よゝ後いさ

三。教養(ヤヤ)権現(えん)今(えん)合戦(あせん)ゆゆゝらりかゝるゝ  
 ぬゝとせうて。ひつひくお祈よ。和泉と紀伊れあ  
 れとらう。たふれ中(山)とてあきう馬よれいあゝいゝや  
 馬とあわく。もゝいゝうゝかゝらり。とゝ西海をがけゝ  
 けし。みおんを失ぬ。源氏れつゝひよあゝとて。六  
 の所りのとるやもせ。梅六ゝゝゝゝゝゝゝゝ。日あま  
 らうりよおゝまて。いゝもいゝと。揚塵(ちようじん)れ中(の)あゝた乃  
 うし。清(わ)らう。内裏(ないり)ありせん。とゝとゝとゝとゝとゝとゝとゝと  
 る。力あゝ十日(の)業(わざ)行(な)か。あゝとゝいゝとゝゝゝゝゝゝ  
 ちゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝ  
 のゝとゝあゝ人(ひと)とゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝ  
 らゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝいゝとゝ

為野よまらつてつ六つおとさひゆむ其儀かうつあひら  
 俣流の園俣藤れはれもし世をまこへ入被ぬも  
 侍をもはく事らんとして三百もあつてまらまらつせらつて  
 とし被八かたふれ西海きうとあつてとてとてとて  
 こまんたふ事らつてやとれとてとてとてとてとてとて  
 わきあまみとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 白くさひく。神もよひみ竹ハ。きまよりのとてとてとて  
 つひもよひみ竹ハ。きまよりのとてとてとてとてとて  
 といふこととてとてとてとてとてとてとてとてとてとて







ありて今日八束府に書くべき事として思ひてしめしにせんせら  
らん其を六死といはれし事とやんげぬりてせん  
たいす方死也。うもく何ゆればちやうそとといふれもの  
ぬり物とらぬはとちやう公卿と一ぶんれ進答あり  
けり。ありてせんはちとあり。後居て光りつは井  
多てあつ海つくはありとて。ちつくとあゆみおらまをら。  
意上よりつくとあり。兵代をさか立て。あつ建いあひ大  
れんが。去る十日にむく人おはしぬひつむとも。右  
束にたつとあれ座上よつと一人とあり。もつとてはるよ。  
志ありあゆめよ。門を入ぬありいきりともむらつていといん  
うぬつてあり建い人を大将として合戦せむらうりつたの  
とつとんととせむ。かつとつとつとつとつとつとつとつとつと

源氏の名將ありし。其れ光を打せて光れと名を  
新へ。是れとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
其れ伝をうらありて。れがうとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とあきつむらひあり。はつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
天よはとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
ぬひのつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
でもおられし。あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
れりなりよ。あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
せてつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
と死といはれし事とやんげぬりてせん

源氏物語

といふ。其人皆當時の名將たる人なり。其内に入  
 らんゆゑあつてせんかゝる事なす。さて是れ日右衛門尉と云く  
 ぶまの志りよれつて。世酒を入道と首実指したる。赤松  
 をうへむられけつゆへいふおとつれおちるつらうまの  
 ひうの近來の大將とんひりるつたつ。他よこころちう  
 ちうく也。其職は居る。人の車はちうよれりゆふ事。  
 せん志つてもいふまゝいふまゝ。當時はたよらざる也。  
 みるはく首志のせんいふおとつれおちるつらうまの  
 え別當そまの天氣とせひひりつたつとせつらうまの  
 せ。先ねつらうまのつてこひりお勅定事なす。かておはら  
 び孫を二儀やまふ事。我らうれうそとん志つて由大長。三  
 條右大臣延嘉れせい代つらうまのつらうまの君とてよす

九代は又十代にけりつたまの御事は往政也。一夜も  
 西のよまをうつて苗家のまは英雄よあつてつらうまの  
 とくよ有道れはよとまをうつてんねれとてつらうまの  
 ちあよ。じつとつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 めのけりつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 て。お家れつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 盛の徳野さんけつとつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 ぶらう。和泉紀伊の國守つらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 て。大將よつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 めつらう。つらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 せつらう。り又次とつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの  
 らをゆつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまのつらうまの

平江巻一

三十二

なるがし。うふいんや君もいもよきごんれ事もおふ。天  
 下れ珠えじるも道たつてうけつよまへし。右きつた書は清色  
 によふもよし。合ふとこそやめし。あひうもくくひまを  
 うくひおまむ辨つてうたりもいかにあせらるやし。そ  
 うよ六つてはあつもいそくうてれはあよ。土白くろは「かん法  
 書きよ西に。肉にく竹たけ前まへうんのあよ。鈿えん蓋がいはいつて。東海とうかいはれれ  
 ぬ。左衛門ざゑもんの書次しよじ弟あによきつひぬひされがつあうくそこ  
 大へらきけつ。又あきりきいれこよ人もそのうかたはあ  
 きふんけはあつる。あふのそころあひされよ右きつれ  
 こすもいひ。其ころあひ女めをうかどぞうけうひひんと  
 へされけし。光あきりうこころもあひ。世中よちゆうへと角かくごころ  
 なる。あひうたれいこきよく。あひあひあひあひ。あひうりす

君きみごらうまの法ほふ所しよよううまつせぬ也。まう代しろのきせき  
 とくふ日月にげつのまも地ちはあらぬ。あつと天照あまてらす大神おほみかみの懐なつま  
 へまを何なによきうぬのうぞ。あまよひのうれあひもとりた  
 我朝われあさよひもうたれとせしき。うまゆと。前代ぜんだいあつた  
 ぬ。あつて。だろじきよよん。からあひく。あまの推おしかこ  
 人のあつと。いふ冷ひやきうそ。あまのあつら。あつて。我われの  
 ちの富とみ業わざよ。うくかあ世よよ生なれ。あつた。あまのあつと。あつ



許由事

許由はあはれも今れ内裏にまゝと海とさうん軍  
 ち。さうともあはれいぬへくそちまゝとく。よれさぬ  
 れ神志つらつらさきさう。おあうれ座よははせられ  
 町。いもゆしくもあひの。君れはゆさうあ。みま  
 打ちかまてそおあひけう。誠は漢朝れ許由ハ。富貴の  
 事をもくぬよ。ゆよひさうあよ。悪もそけたりとく  
 みとわひひま。いあうんやけ先程ハ朝あれ練長やて  
 悪もくもあれあまひをさすのあひ。かうあ紙を何  
 ぬひぬるくさあふそ。しつらあ。か。ハ帝堯天子あ  
 位よれいひの七十年。あ。すて。あ。より天下を  
 ゆつらさうて。賢者とあひひさけ。よ。大は答をつひ

許由事

九五





信西子息をんほをなごめりて事

去程は東とやうく明されば公孫せんまあるへしとく  
 乃復開白右政大臣りつる。右大臣これみり公已下  
 乃のせんぬの流り。是ハ少胡玄入道ハ子息そり信  
 十二人れつと。そのくはこめりてせんため也。右大臣これ  
 ちこつなごめりてせんぬの流り。死とい一筆をせんぬ  
 せんぬとせんぬせらる。その位記とらめりて。僧ハ夜福  
 なをそりて信せとせんぬ。まろ新宰相とたりも雲ハ團  
 播磨ハ中將りたり下野ハ團。右中辨貞ハりたさ衆  
 團。兵部ハ少將長ハり阿波國。信西の名ハこれハり。安房  
 此國。法眼。浄憲。丹波ハ團。法橋。寛敏。上忍ハ團。大  
 法師。せうせんハあとの名。てうせんハ志ハり。團。せんよう

陸奥國がくえん八停の國明遍ららるに此等とそと  
 たりらまけり。あつれり多那北流より春まき花れ中  
 へ志あらずと云勅額とぬりてせいあひりあまを  
 とぬ十年の風よひどふ。吉嶽花よとて風えのれ夢と  
 まあるも終又ぬめてけいさの毛をつくえり。とうえん  
 せりわうよの勢神とらんよせり。散あれ雨とあしめ  
 るんれかぬいせんをいれりしまれ海らよ。わらまををら  
 りてうらよあり。すんげいりよじまわぬへいあめし  
 け女とらよいりまて。あつれりんよんあつれりあ











志百くして。六人一人をいさむりされ。もあざく。新事ありて  
それい。なまれ人い。う。い。い。あ。う。あ。わ。ら。り。あ。り。あ。う。て。あ。人  
右少辨成より。と。り。く。六。く。と。自。居。と。な。れ。あ。り。羽  
敵。の。し。し。と。う。ん。と。う。く。ふ。う。く。あ。せ。あ。つ。あ。い。あ。れ  
ら。事。と。れ。い。大。敷。團。白。あ。た。ぬ。た。大。臣。内。大。臣。巴。下。公。々  
あ。上。人。執。も。く。と。あ。つ。あ。さ。り。内。事。と。む。さ。て。も。さ。ま。り。  
兵。を。い。し。と。ま。さ。て。我。は。い。さ。ふ。し。う。さ。あ。つ。ろ。され。大。り。此。門  
あ。よ。い。馬。車。の。立。所。と。あ。く。せ。さ。合。あ。ら。よ。う。さ。ら。お。下。下。に  
う。ろ。あ。ら。兵。あ。ひ。ま。し。ら。り。て。う。ん。み。と。い。い。海。原。お。り。て。ま  
で。み。ら。く。あ。り。海。盛。は。ま。ん。く。あ。り。い。え。ん。わ。ら。う。ら。矢  
め。う。ん。か。く。さ。い。ら。う。さ。い。あ。ひ。け。



















平治物語卷第二目錄

- 一 後醍醐天皇御事付たぶらむ御事
- 一 義朝六波羅子考らるる御事頼政心算事漢楚戦事
- 一 六波羅合戦御事
- 一 義朝しほ御事
- 一 たぶらむ御事并たぶらむ御事
- 一 常盤ちりきん付信西子息事のきほ御事
- 一 りととあふ御事
- 一 義朝御事
- 一 ともあふ御事

平治物語卷第二

待賢門軍のたふさむおつるゆ

去るお六波羅の白鳥の公卿せしむるに  
 とるまじきなり。うんれひてまじよらういと  
 た者のこてをうして。わあがし引立て。大床よりこまる  
 中納言もくねを下まわらう。もろもろの  
 せむやくはほらびもさうひき。したぬくも  
 せうれ内裏也。うらうらあ。朝来ればちも  
 軍はつりて引立ちぞう。ひきこたす  
 ら官軍を入る。内裏をさし  
 ちの朝敵より。

田のふる。時刻よのいふがくもあつてもいふていらせむ  
かませし。火先なるしを来しそらんぞれ執定して候。  
まのまのしんまのが吳國をくつて張良の如き所  
ろせしと皆もちがうけつては廢のまのがめん武のや  
らまらして。金剛を為りやうよ。せむいばらまの入  
しとそらして。ちうねり。まは座あまのら居れはり  
たのよ。清盛。三河も頼盛あつたれまら盛。侍よ。後  
れもあまの。子息た来つたせういふ。ちもりの判官盛  
の。子息右忠尉盛と。三方集の尉もやと。新故た来  
つたも。いふとれ次あつていふ。これおれもやういふ。ハ  
らうしやうげつあまらたもやういふ。月十あつてい  
ふ。ちもりのまのしんまののむす。六波羅院打

わて。が。後。海。と。し。せ。わ。く。西。れ。河。東。よ。ひ。く。り。な。ま。の。ま  
き。ま。の。ま。の。し。ん。ま。の。今。日。の。つ。ま。の。大。將。も。ま。の。あ。の  
地。の。あ。の。の。い。ふ。ま。の。ま。の。の。あ。の。い。ふ。の。い。ふ。の。  
ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
て。ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
孫。つ。ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
安。城。也。我。ら。の。卒。民。の。ま。の。三。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
卒。き。ん。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。  
ち。の。  
の。  
て。の。

新編



















せめたりふ其るは官軍をへりて、<sup>い</sup>ひまかゝあまきか  
 けきハ源氏由裏へへえまじりて、そころよ六波羅<sup>むら</sup>ゆとぞ  
 ありらまじけり。そとう別當<sup>べつどう</sup>とほな兵衛とにれけりて  
 さいどありあつて。東三條よりへりよ。じや二ついんせ  
 せまじり。その中より一跨<sup>た</sup>れ。じやよけ合をわきだそ  
 へハ安藝<sup>あゑ</sup>の國に信人東條又もと名ある所ぞ。こゝ引  
 てるおと一其らひとぞ。是のうよほななやま。こゝ  
 もこも一つれ。じやよせ。じつひはもいぬそ。こゝ  
 めまれぬの信人大木戸八多と名乗もはてぬ。まぢ  
 らびれかぬいておと一其らひぬて。是のうよほななやま  
 ねあれん。えんよ。や入向とてやす。こゝまら。じつひ  
 つゝあり。こゝまら。じつひ。こゝまら。じつひ。こゝまら。じつひ。

けつ。二條堀河をせしせまじり。おまれよ。二つれ。ひと  
 しとひく。軍人たりのある地れ者たよあつきて。びらひ  
 ぬ。こゝと云あつめて。つまかき。じつひ。こゝまら。じつひ。  
 て。日暮。ほま。て。あつひく。ゆも。けり。也。右は。つれ。こゝ  
 ち。じつひ。あつひく。を。まら。ま。て。は。軍。れ。の。あ。つ。ひ。く。  
 ひま。ど。の。こゝ。まら。し。く。と。せ。ら。ま。じ。け。り。こゝ。まら。し。く。と。せ。ら。ま。じ。け。り。  
 て。は。大。内。よ。ま。ま。れ。つ。て。は。こゝ。れ。せ。め。あ。つ。ひ。く。と。せ。ら。ま。じ。け。り。  
 け。あ。つ。ひ。く。ま。ま。れ。つ。て。は。こゝ。れ。せ。め。あ。つ。ひ。く。と。せ。ら。ま。じ。け。り。  
 れ。かり。よ。お。ら。ら。ま。じ。け。り。金。の。丸。を。ま。ら。ま。て。右。は。門。に。ま。ら。ま。て。  
 こ。そ。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。  
 わ。ま。じ。て。い。れ。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。お。ら。ら。ま。じ。け。り。  
 河。原。を。ま。ら。ま。て。せ。ら。ま。じ。け。り。



義朝六波羅よあらうの頼政心算はあ付ん漢楚戦の  
 去程ふ六波羅よへ五條の橋をこりらあうひそくひて  
 侍死よ源氏すあらうとてとてとてとてとてとてとてとて  
 清盛とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 ぬてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 せい。わけてやんゆんてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる  
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 してとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 してとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 河原よひつたり。あ源を深田とてとてとてとてとてとてとて  
 してとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて











六波羅合戦の事

去程に惠源太のそのも六波羅へまゐるは。一人童子  
 けいひのたすきをいすまてころひたり。金子れ十兩  
 家へハ係元れりきんもたまをこれ陣よりも入るる  
 れ三弟兄弟とらんてうつ。ハ高はたししの夫らとをれ  
 りきて名をおきくはり。と夜もまらまらもくころひたり。  
 矢うひも皆いさくし。ろを引ね。た刀をとおおされバ。お  
 ち刀をひのとげく。あつ事た刀がふと一合殺せんしちうとあ  
 りきあつたぬ。又同國れ住人あつら右るれせうと殺しを  
 身れバ。是はせんは是意後。た刀おりては。おまはるが  
 けをさしやうかりんとしとされ。おまはるがけをさし  
 色はくしてはるがけをさしと。おまはるがけをさしと







ばよらにむらちりてやまぐらうとを首代よれと  
 といふ事なりしが一ときらつあぬふしとておとりのまへん中  
 何れにうへにさるるに會得よくらうんそいふやうを  
 ぬる。皆えうりしむらてりていふ事しよあたまやあま  
 ちりして敵をゆるたをさそを良將といやしてゆくと  
 くとれいさきあはくはあれらとあれくといふにむらぬ  
 うまうりつとくかた力として。兵あまこありまくと  
 りきさきとてまうらぬらうまへ河原をれわりよたらら  
 せしりぬ











障れ老僧も我邦と見しと一所よりと。とおひわすをぬよ。  
 うのうのうとさうなをひたりそり。我邦と見しと一りやうと  
 けきいおんていせいせいせいと見くろいさうけりぬよ。三  
 土踏れつものおおぬよ。よのさうさうさうさうさうさうさうと  
 うき入げちしてさうさうさう。大らみさうみもカとぬよと。  
 あまのさうさうとておひさうさうさう。ひのさうさうさうさうの  
 中さうさうさうさう。さうと敵よさうさうさうさうさうさう  
 よ。じさうの箇の位人。本井に命を別國さうさうさうさうさう  
 とさうさうさうさう。れ福んさうとておてさうさう。大らみ中  
 よりあさうさうさう。さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ける。我邦ハせれ松さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 うおおしとぬ。何者やとんとんとぬ。さうさうさうさうさうさうさう  
 らんとぬ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

箇へおん所。おおぬをさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 じさうさうさうさう。義朝わさうさうさうさうさうさうさうさう  
 て。日中一れぬとんとんとぬ。さうさうさうさうさうさうさうさう  
 ぬ。我身もほるび人をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 おどらぬおぬと。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ぬ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ぬ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 くささうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 何者さうさうさうさうさうさうさう。和んさうさうさうさうさうさう  
 よさうさうさうさうさうさうさう。東國の下のさうさうさうさうさう  
 われおとよおいせさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 孫

孫作

五



ち成者よかきまらねばいひなれどなれど一も  
てあまらぬもやうしるも中僧徒の事  
あり成事なれどもあはれなきこと  
ひいひいしる事ありき事ありき  
舞しする事ありき事ありき居て  
しりりりりりりりりりりりりりり  
かたきしりりりりりりりりりりり  
ねへゆふりりりりりりりりりりり  
あまらぬもやうしるも中僧徒の事  
あり成事なれどもあはれなきこと  
ひいひいしる事ありき事ありき  
舞しする事ありき事ありき居て  
しりりりりりりりりりりりりりり  
かたきしりりりりりりりりりりり  
ねへゆふりりりりりりりりりりり



六



信頼のりくうらんの事事并並さいさいのの事事

去程は信頼のりハ、ううととよよととせせててららままてて。ハハせせれれ松松原原より  
 ぬぬててくくままれれけけりり。そそれれままててハハははたた五五十十ととづづりりああひひつつくくひひ  
 後ハ人人よよううとといいままくくぬぬゆゆとといいふふししゆゆりりびび侍侍れれなないい  
 かりかかりかひひががうう。ハハ末末ととききととれれりりををめめとと。ちちううくくよよめめららゆゆ  
 ちちううくくめめととハハ式式部部れれ大大掾掾りりううぞぞななりりよよけけみみ。ああまま  
 里里ににははりりままててるるててゆゆハハ。ああまま治治州州よよてて馬馬よりりななててささああらら  
 ししががつつひひああわわぬぬててままううせせけけししとともも。けけししれれるるののいいままよよ  
 けけららちちききててななハハ。むむののああききかかつつくくははとといいふふとといいくくくくハハ  
 ののいいままゆゆりりびびままりりてて一一つつももめめききままりりををりり。又又馬馬よりりささ  
 れれせてて。いいははりりへへををゆゆりりんんとといいふふももききハハ。仁仁和和寺寺へへととゆゆここ  
 ままああるる。ままんんだだいい神神へへががああままららしし山山法法師師れれ死死ししちちををままりり

平治元年

卷二

平治元年

卷二









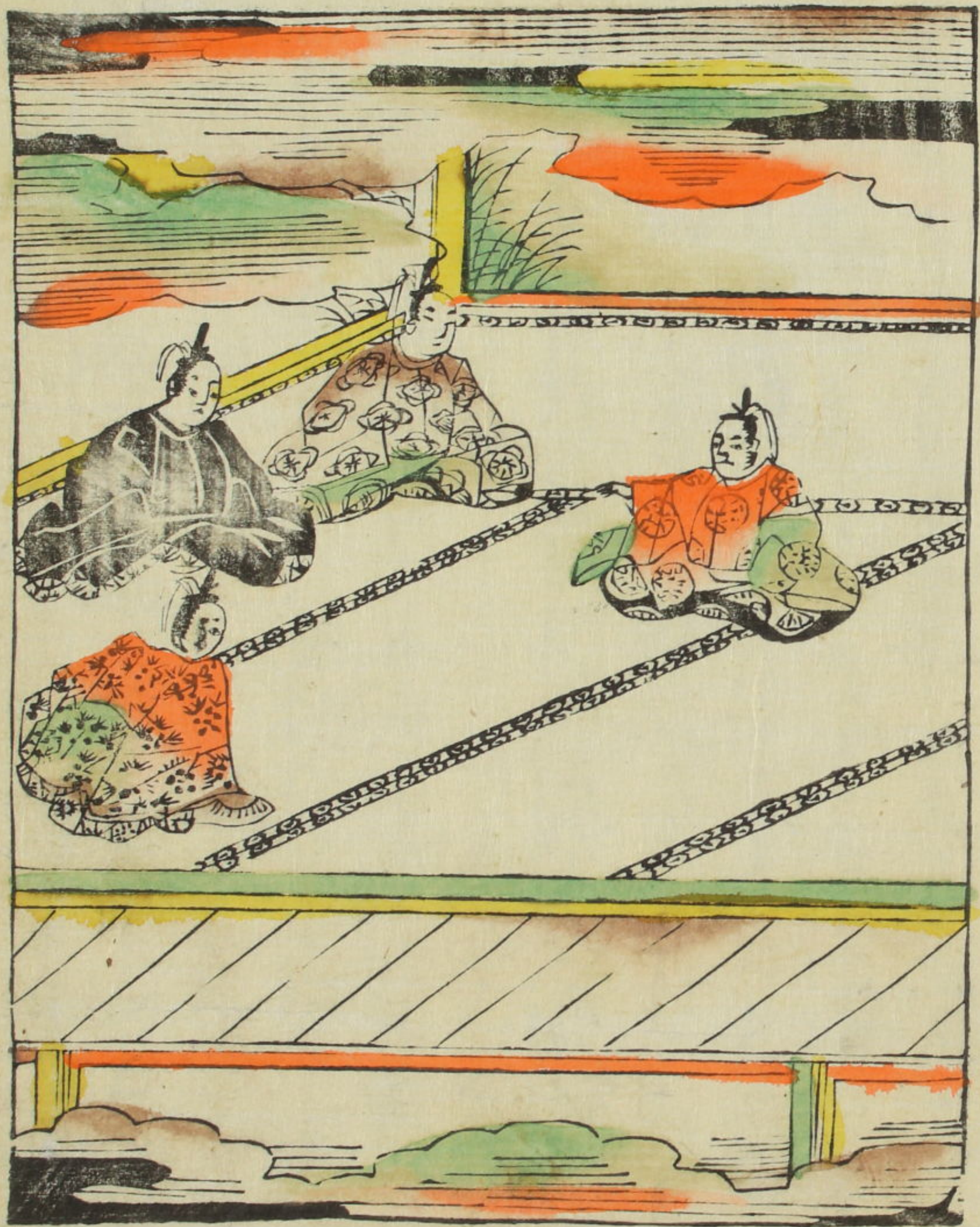
とおれり。むねよれひさしゆらるゆを擧げても。あま  
 つかたもあまひつあま。あまのぞなりけり。あま  
 よりけり。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 らあ。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 れらして。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 よう。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 見らる。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 とう。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 そあ。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。  
 ひ。あまのぞなりけり。あまのぞなりけり。



官軍らとくたたむる事付じりん人賞威やららるる  
去程不伏見の海軍物と申仲の多しをうらうら今方より  
そとれより内内をわく東軍下しあきらんとせらるる  
志と女ももんつ腐れ常家坊孫う小治ひに九洞院より  
とままつていひの胡敵よりせきしきやうちめよははれ  
河に伏忍入りしとせんとせよとていひあせりうらうら  
いひわききわくれ合かいおのそらうらうらせびのくちのり  
ひのちくしとらちしきわらひ河田ひとす今ひ其子たき  
せうすあのみいりうあやうそて父ひきよちうせらきやそ  
位らもたはるもて大式法盛ひ三位も位一もやうた  
信ひたき信ひたもいひし次男を吏判友のいひと大和の  
三男系盛ひまひりもいひる信盛合中三河のちね盛ひ尾池

おもひあつ侍友はえんきつる侍友もは補とと卿花山院大  
綱とてしとて心感事ハ差人報方とせよし。信頼のれを  
あつれ格大揚りも家臣の格の務りくらり吾兄尾池め  
物たり。子息頼の格のぐらう播磨の格の物中交ぬ事  
を初長はつちおあ東なとけ頼初はつちそのむれ大揚りも初中事の  
ちる層かさ高たか若東政盛の七十三人れ格盛とやわらうい  
西人やうて初おされて民甲格れ初揚りくらり播磨奥國尾  
張れ中初後ハ越後の心へるもあつる。其お戒ららせら  
ぬ者ほ目ももたねうらう。お白まて初盛はつちもわらうて  
よらん二門よとていひかた今日らうらうとていひあつて  
とれがよと絶たとてうらうはるなつるを去花はあひひと  
いひうらうとていひと初と初の中初のりこはわらうらうとていひあつて

さつての世に二平の月あつたてうれをよかれぬれり  
 久の海也町の花堂をまると歌の風もさうふ感義れ  
 とつ眼前より生果かすはれ難と世に梅も海川  
 天と和ぬ二年の射るも海は親縁のせらけり  
 浦の夜は代久の二年の射るも海は親縁のせらけり  
 唐亮舞の仁恵より海は親縁のせらけり  
 となれよと懐をよ合義より海は親縁のせらけり  
 ぬとさつての世に二平の月あつたてうれをよかれぬれり  
 久の海也町の花堂をまると歌の風もさうふ感義れ  
 とつ眼前より生果かすはれ難と世に梅も海川  
 天と和ぬ二年の射るも海は親縁のせらけり  
 浦の夜は代久の二年の射るも海は親縁のせらけり  
 唐亮舞の仁恵より海は親縁のせらけり  
 となれよと懐をよ合義より海は親縁のせらけり  
 ぬとさつての世に二平の月あつたてうれをよかれぬれり  
 久の海也町の花堂をまると歌の風もさうふ感義れ  
 とつ眼前より生果かすはれ難と世に梅も海川  
 天と和ぬ二年の射るも海は親縁のせらけり  
 浦の夜は代久の二年の射るも海は親縁のせらけり  
 唐亮舞の仁恵より海は親縁のせらけり  
 となれよと懐をよ合義より海は親縁のせらけり







うらやまをあやむふれらるる事

去程は馬にうまかしの國のへおきて。うらやまの心と見  
ゆふは懐あけ清ふれ名残よび人づりこそおろつり  
おれをうていふくかきくそむねゆきとく。あつく念  
佛ぶつこそめく。うらやま馬にうまかしの心と見ゆき。  
いらひをうけたまわらるる事。やうそめをまつりてわ  
らんとせらるるれ。おろの心と見ゆき。うらやまの心  
と見ゆき。其より引ぬせむとておろの心と見ゆき。所  
よそかある。道とくおけし。うらやまの心と見ゆき。  
あきとゆつあふし。ゆつする其とく。乃ゆへを  
のよのうらやま。ゆきと見ゆき。何とてあや  
ゆりあしやせせ。あやむしゆきとく。乃ゆへうらやまの心と見ゆき。



去程は馬にうまかしの國のへおきて

ゆふは懐あけ清ふれ名残よび人づりこそおろつり

うらやまをあやむふれらるる事

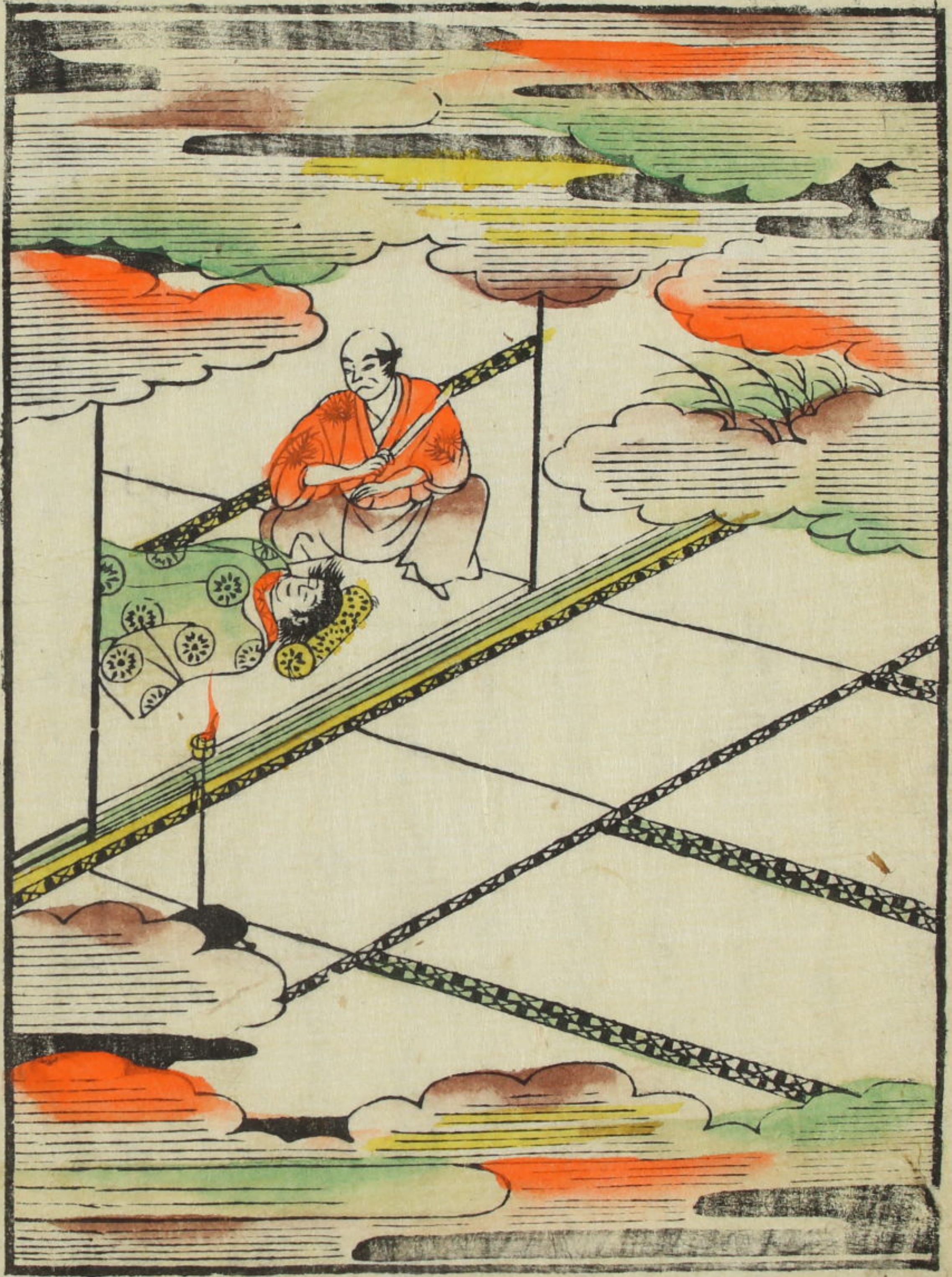
去程は馬にうまかしの國のへおきて











義朝殿間下り此事付おひのむらりぬ

去るふりともいふ大炊りともありあまむりかくてもある  
 なるひりぬいやくと立かぬふ大炊りはうそゆとをなく  
 里ゆかりととしけしともう海道をきかぬありぬ  
 し朝長とつらぬぬとおじと志願ぬぬ者れぬ  
 とともつと二三百人せせたりその式部乃大  
 捕もとんうとどぶきなりら死してとまうせは  
 りんとくあまよと入る引お打たつらうせせ也  
 とう人たともうとんくよけらしてこやとれ森よと路  
 入ひつてとすよ人いさう。右馬れらうとともとぶらう  
 ぞ我よよかきたりおとらんとぶらうとまうその  
 皮をけけらうと十文字よりと切て。大丸と中には折

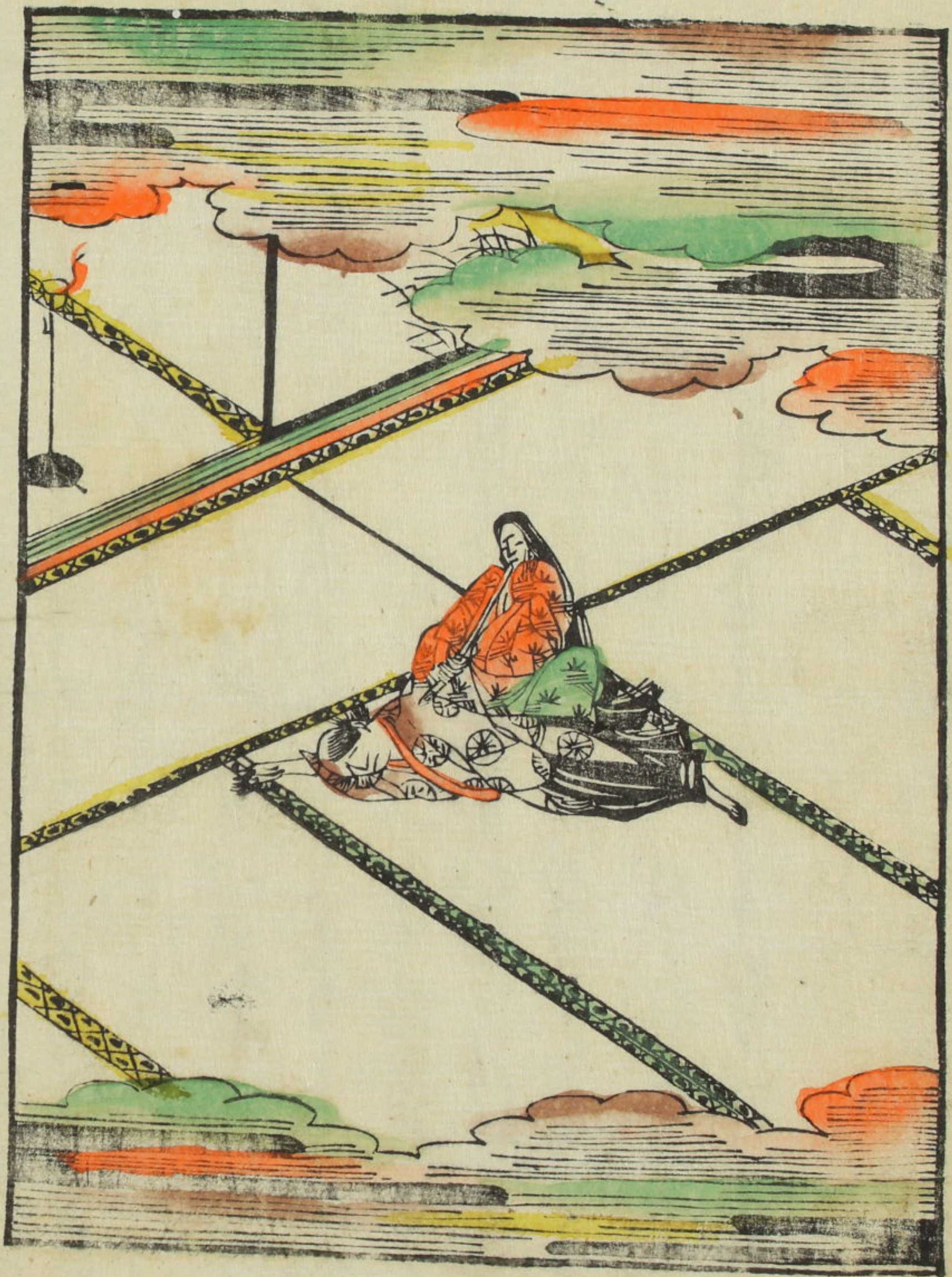
じふしをかりよさう。皆先を大將とらめて海にけしむ。大  
 よく宿とあゆふ。中へ入れたまはれ。あつるまでかたむね。  
 大炊内りてえなれば。じふしくまりぬ。あよふ。お神ひき  
 うきとくちたりし。うらふ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 せととくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 せりたり。其後平賀れ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 せりたり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 いそとくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 馬相れ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 大徳人。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 けとくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 とろぬ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。

われり。義とくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 かつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 われり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 のたつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 しとくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 何れ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 ぬは。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 とくち。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 ちり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 し。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 丸。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。  
 け。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。









頼朝の御下り事

去程に去流れしはけれを海にそらりけり十二月廿八  
 日れ敷ちよもあをたひとされておれゆよこへ  
 と海にひひけりおせよのなるけをせくこらと云  
 山寺れもとのけと海にひひおきおきかの事あり  
 よとあるに屋よきおれたこのことありそおきい  
 山ももあらんおきわことおらんこれおよひらと云  
 とけあるを一人なりとておきとて六波羅へ海にせき  
 船にらんやうよあつたぬまよとあじと云へてよありて  
 ちあかりかんとちおひくとおに海をそくぬき終りあが舟  
 れこころありよおしひひけり老后えつをせり家  
 まりてひけきバ老后同くころ海にせく。正月申

頼朝の御下り事

四十一





平治物語卷第二終

平治物語卷第三目錄

- 一 金王丸尾張うづまきの事
- 一 長田ながたにの事
- 一 付大治ついでの事
- 一 忠宗あきら尾羽おしの事
- 一 源太げんたの事
- 一 清盛きよむねが家いへの事
- 一 頼朝よりともの事
- 一 常盤とこの事
- 一 吳越ごせつの事
- 一 常盤とこ六むの事
- 一 強つよひひの事

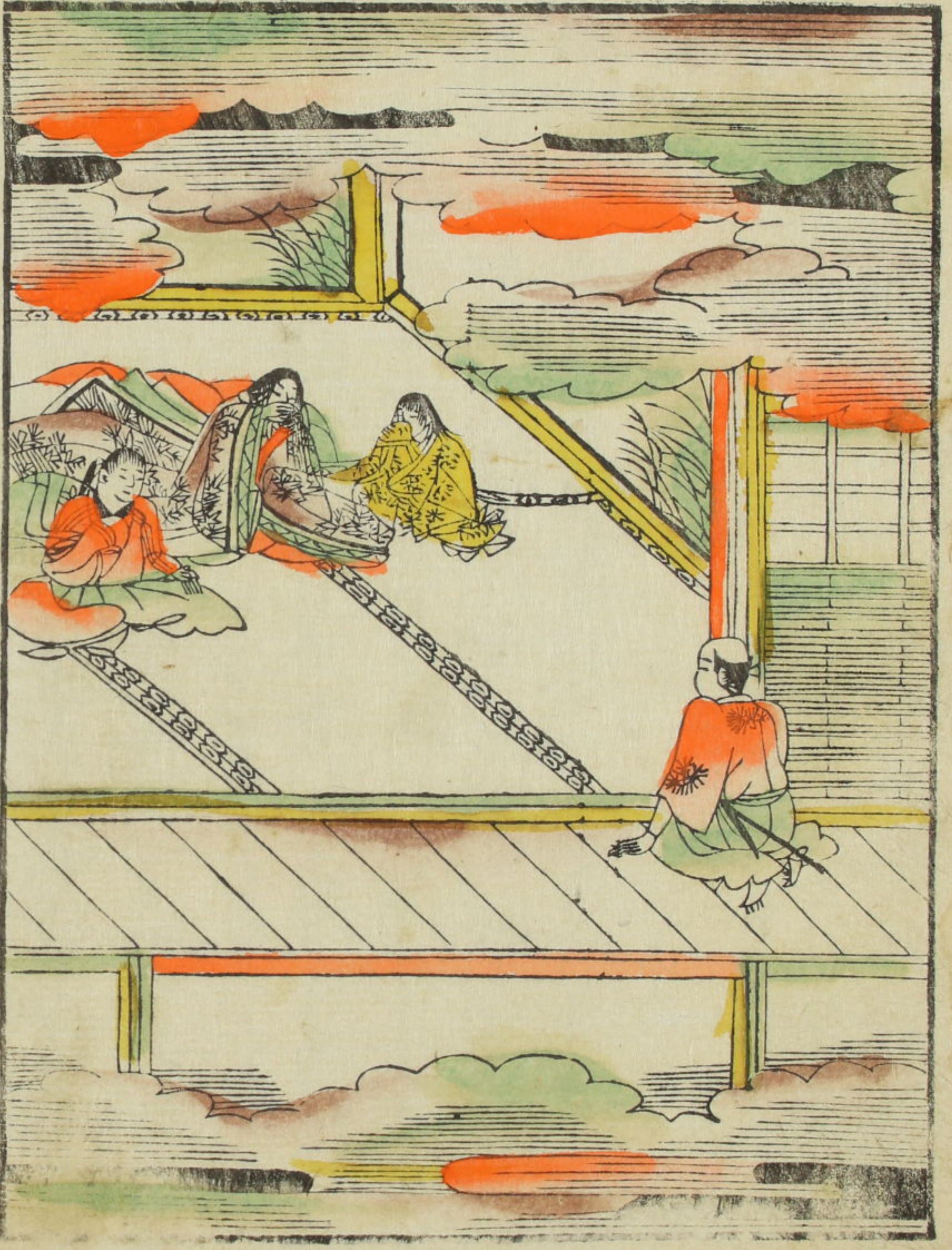
- 一 頼朝とん家れり付盛安ゆりありせれゆ
- 一 牛若真別々より乃事
- 一 頼朝義兵とひをらるる事 并ニ 平家魚らの事

平治物語卷第三

金王丸木りりしせれはる事

幸はたはなぶがかりて。盛安とをなすとふりり。みぎを  
 目と又とまふざれば。おきあかり。年をなれ。平治二年  
 みよりよなり。正月一日わたすの年まよりなむ。内裏  
 には元日多んさんれき。たのふりり。むと天慶のまいと  
 て。朝拜をさめらる。院を仁和寺よわつをぬへ。ぬれし  
 かりりかりし処。正月五日のあ。たれ事なるま。  
 たるれ。そのわひあまう丸。と記さる。やま。味つくる  
 かりりて。ありり。福をなむ。こま。あつ。な。あ。て。こ。あ  
 三日れ。わつ。あ。た。り。れ。ぬ。む。野。る。と。り。あ。ま。て。お。ま。さ。れ。ぬ。四  
 多。り。た。め。ふ。し。う。き。う。せ。ぬ。ひ。ぬ。と。や。せ。む。さ。う。を。あ。へ





おちびりやせとさうら六波羅みとせまのうら  
付大政をわけて獄門のきくらぐ事

去程又同六日。一院仁和寺ありおさせ座敷もきとも  
三條ありこそやまぬ。清所よりう言ふもなけき八条  
堀川皇太后女史のあまの常伝とほあひりて。入せ  
ぬす。く日おりの此國の住人おちびの面あうしひ子  
そくせんやうなまじひの上落し。た記のたふれくうとまきあ  
ひよ鎌田吾清まゝあつらびとあふして。不次れやうと  
うううのうらうらうらけり。先ハびりれ平太史ととよ  
こつものよう。嘆哉次やあまきりまう。平二帝しひの居  
り子孫也。うととと代れ家人と。鎌田吾清のうと  
なり。とこれハ平太史判友のひ。二条京極れ子平堂

又めじろく二れこひさしげぬてすふりちたのたせ  
海と自らう自とくわいされど。月が九日卒定兼行  
そう判友の序。あはさあひうもてめりりせし  
ぬやうもささ。せいぬやうすさる。いねさくめてえひ  
ひん八ひじりて。西の洞流をぬかりやわ。左れ獄門の  
標本あまのそつげたりけり。かあるものりきりうん。たるぬり  
りハ下野れつたりし。二首のあさつさ付たり

下野ハ絶伊のつらんこそなかりおけき

のーとさかんえぬあせけりまの那

あまのげらくまよさかんくドけり。いじりままうしづらひ  
さづめんようけらまたりけるを敷六たよとますいひさ  
けりかんや

西にがやままうんよりそさう機けり

あつとらうだぐけりまこととて

やま見たたりそれ。志のやわひさる也。海さうとハ桓茂えいじは  
子。ろく系れ親まより又代ろくまをけたらめらねま。幾  
よのきり子也。朱しゆ藤流ふじとうりゅうの語定承平せうへい又辛二月よ。しんを  
おら。おらひひられ大せう國者こくしやとつとより。東國とうこくとし  
たぐ。志もおされ國さう海のさかりよまや。こととて。平  
親ちかとと自みづかせうせり。六年よあまのつて天慶てんけい三年二  
月よ。あら系れひで御みようこれらひ。四月れすあよ系  
ちやう。五月三日よわしひぞう。ようともも若おられ  
を。びらびも笑わらをせん。ひであと國者こくしやが子らる。幾ととも  
よむらうとせめりうとも。城しろはようとておらがかりけま

と。ひてはや身をなつてねひけつ。海さうとさうかう  
 あひおもしろき人ともあつてさうよきうぐれさうたわい  
 だまごつたえまかかりしよ。あつた新米をあらう  
 けつ。あつたおれをあらうてはけし先を討てさう。よき  
 くよじらるべし。同十百改元あらうて。天曆と云。これ号能  
 よよと也。去平四月は保元をあらうたためて平治と云。ま  
 じ平氏とんもあらうして天下をたむびて平治と云。さ  
 せうが。さうして源氏あらうして平家世とねたり。さあ大  
 交れた大いこれから公に平治と云。さうと云。平治とい  
 山さうゆきあらうて平地也。さういふさうさうわい。あつた  
 白雲がけすさうと也。さういふ人。あつた。さうと云。さういふ  
 海さうと云。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。



きくし孫尾列お遊くらふ中

去る永暦元年正月廿三日ちきくおにまゐりて。お  
らへりお遊くらふにひびきばはしるはちのせむらうらつら  
かき居れせうよななれりる。いさむかよはてしむかひに  
しともまの歌はひしうれちんちすもいもいもいもいも  
也。きんはく東國よひちやう一ひひまびらか一れはひ  
ひひこう十三年ありたりしよりなびしむかひひはひ  
おはるるし。さうはせしはちゆもいもいもいもいも  
しともいんらんれ我う也。其うい人のいもいもいも  
いせんいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
るれいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

舞はおつりときをゆらういもいもいもいもいもいも  
うしやせげぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ゆびと女日いぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
しらうも。さうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
らうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぬめいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぬいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
こそれのあもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
うさぎをわらうらういもいもいもいもいもいもいも  
あういもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
件ようれせしうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

きくし孫尾列

い





画源をちらりせらるる事

去程月々女五日、鎌倉に画源をあらわすに、  
寺に赴きて、  
がらゝりて、  
三條、  
中、  
て、  
我が人、  
死、  
ら

乃、  
國、  
ら、  
て、  
ら、  
下、  
下、  
の、  
す、

平家



入してははるはるのやうな事なすふ事なすのやうに  
 する事なすふ事なすのやうな事なすふ事なすの  
 やうな事なすふ事なすのやうな事なすふ事なす  
 のやうな事なすふ事なすのやうな事なすふ事な  
 すのやうな事なすふ事なすのやうな事なすふ事  
 なすのやうな事なすふ事なすのやうな事なすふ  
 事なすのやうな事なすふ事なすのやうな事なす  
 ふ事なすのやうな事なすふ事なすのやうな事な  
 すのやうな事なすふ事なすのやうな事なすふ事  
 なすのやうな事なすふ事なすのやうな事なすふ

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ  
 つてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ  
 つてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ  
 つてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ  
 つてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ  
 つてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて  
 はあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあ

新法集三



おひらき... 三... 大... ず... み... ま... 海... つ... こ... 是... 死... たり...

たそり... せ... け... そ... け... ひ... け... 女... なり...



頼どとといきとあゆ付と記をねらうらるる

かたき海は月く二月九日よりととれ三さん前れ右共東  
れはきよりととと。たつりれうらうらみよりいきよりて六波羅  
よつらぬよ。あやしく決るん中えれ大まんとるもの  
くびととととらる。其の中へおわりたうこのあふ。孫平兵衛  
ひひまよ。尾かよりとととしけうが。不夜のせうのあふ。せ  
がうとつ所よ。なほあひあうらうや。しひまよ。たせい  
よとととて。なほのびへらう志のひびき。あやうととと  
まねよ。これあやうとととれおよ。むのまよ。たせい  
あれよ。あやうらうらうらうらうらう。やうととととと  
しなうらうととと。あやうらうらうらうらうらう。あやうらう  
けう。あやうらうらうらうらうらうらう。あやうらうらうらうらうらう

五五三  
一四

あくとぬゆりはよ。新くあへどついであつあよ。卒於法華二廿  
 一とあり。すあつら其下をりきて見えしに。たごり此預  
 とつひとよき。あつせくうつたり。もよおてる乃子  
 胸をあつめし。わろく大炊のまふそやけつ。むつさよ  
 うつて同く指束けつせ。うつりいもよき。あつ  
 わりよき。あつせく。その河邊に。あつたひのこつ  
 兵衛はよきのう。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 我もあつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 けつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 せつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 よつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 きつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。

一人あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 ひとりあつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 れつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 みつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 ちつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 母れつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 まつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 六波羅つたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 よ三人あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。  
 のつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。あつたひのこつ。





千眼<sup>ダ</sup>ありまていふそふりぬぬらんとそあわこころやうく  
あつてさよと色ありわなびのづうへ入るるよ。目比<sup>チ</sup>は右のれう  
のさあまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
くはいふにさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ

の太家<sup>キョウ</sup>の佛<sup>キョウ</sup>のうらりてくさきぞいもとのまの風<sup>キョウ</sup>  
まのの明<sup>キョウ</sup>帝<sup>キョウ</sup>のまのうらりてくさきぞいもとのまの風<sup>キョウ</sup>  
月<sup>キョウ</sup>のまの明<sup>キョウ</sup>帝<sup>キョウ</sup>のまのうらりてくさきぞいもとのまの風<sup>キョウ</sup>  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ  
あまのさあまのいしりうのけにけれつていふもさ





ようとてをいふやうなるらるる付 呉越はくさぬ  
 去る兵衛はきりしむもいふらるる  
 む尾張れもより丹波れ故三國弘とさくさく一人  
 つきらきけりてよさあきさらせらぬあしとて  
 こころは。お清はいつちぬとていかにわ  
 とやせらぬきあさくわ保えよ。おはりのゆらきいふら  
 りしあひとなれ合戦よこころぬあしとていふら  
 しあひぬ。僧法師もかりて。おはりのゆらきいふら  
 りしあひぬ。おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら  
 せられたあひぬ。おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら  
 おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら  
 おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら。おはりのゆらきいふら

三才巻三

十六







わしこそさかす。去<sup>こ</sup>年三月よ母よわんせ。と去<sup>こ</sup>年正月又  
うしゆあふ。うしゆともともあふ。さむしんをさむ。去<sup>こ</sup>いびんこ乃  
がらうとらんとらんとらんと。卒<sup>そと</sup>於<sup>そ</sup>染<sup>せん</sup>をあらんとらんとらんと  
あふゆ也。あふらうつあふらう。あふれれ七十日と今日あふとあり  
四十九日とちつたまふ。つらつる信<sup>しん</sup>佛<sup>ぶつ</sup>施<sup>せ</sup>僧<sup>そう</sup>れをうとらんと  
さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。  
あふらうとらんとらんと。國<sup>くに</sup>弘<sup>こう</sup>とありまはらへて。孫<sup>そん</sup>平<sup>へい</sup>兵<sup>へい</sup>彦<sup>ひこ</sup>  
よ。あふらうとらんとらんと。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。  
百人はらうとらんとらんと。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。  
つらつる。つらつる。つらつる。つらつる。つらつる。つらつる。つらつる。  
あふらうとらんとらんと。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。  
よ。あふらうとらんとらんと。さむとも。さむとも。さむとも。さむとも。

あふ親<sup>おや</sup>のあふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。  
あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。あふちもあふちも。

三二 新編

下りてよをまはれんがゆへに身をゆかりのかりぬきを  
 としきも大かしのように入ればとてぬきをきしきりて  
 りのゆへにぬきをぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 のゆへにぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき



五巻之三

七三



付らりしむられたるの事

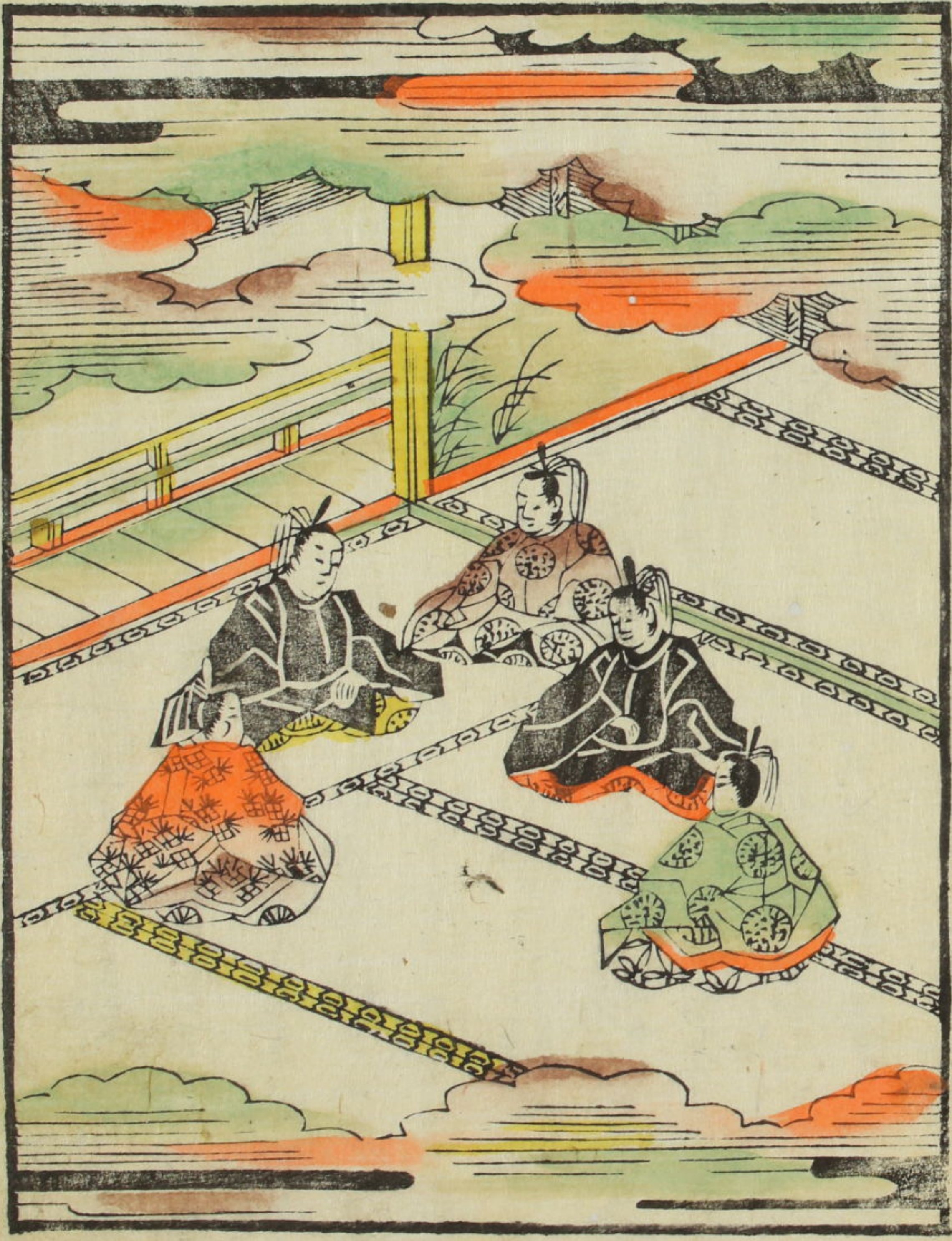
まはるるの事... 呉の越れ... 二月... 我... 萬... 春...

漢人の敵... 軍... 天下... 我... 仲... 行...

平定

五

かのさしつかへなきあはれなる御方とてこそ城より。この  
 のうかき鉄中てつちゆうよりなき入るるも。腹はらに中ちゆうに一のをばあめたり。そ  
 れよりあまのいりせいかのちからまはらんか。しりし君きみにまほ  
 ちからひの朝あまの死したかしてあはれなる御方。まほなる  
 一人とてまほしく命をたかく。おとんとまほして本國よはうのり  
 りおれにちかたは。下馬げまして。この國のへいなるわがし  
 どもにのこし。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと  
 おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと  
 まほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと  
 まほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと  
 まほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと  
 まほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんとまほしく。おとんと



と記す六波羅より母の事

去るは清盛なり。しるもつ子を。き<sup>た</sup>盤<sup>え</sup>りて。三人のい。と。ら  
ひく。ちつも。さ。きんし也。うのひ。よ。い。ま。し。る。き。い。盤<sup>え</sup>。母を  
りかて。こ。り。ま。け。り。宿。よ。た。ら。ぬ。う。れ。ま。う。し。ま。あ。ひ。ね。と  
おし。目。より。子。を。引。き。し。て。づ。ち。に。さ。く。由。り。ひ。か。ゆ。り  
ぬ。い。て。ま。り。ゆ。ん。と。や。け。し。は。あ。ん。で。う。その。母。と。う。く。た  
と。う。て。い。り。ぬ。よ。く。六波羅へりか。も。う。く。い。り。ま。う。め  
と。れ。そ。り。母。あ。く。く。け。り。は。我。六。十。は。あ。ま。り。身。の。の。り。今  
日。あ。い。も。ま。あ。ひ。ね。お。ひ。ひ。身。ま。あ。し。て。い。ま。い。ま。う。う。あ。ま  
に。ま。し。の。ら。ち。や。う。づ。う。ら。い。の。く。る。い。ま。あ。い。ま。い。づ。り。り  
し。も。や。あ。い。ま。う。て。ま。あ。ひ。ひ。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
と。記。す。は。水。火。れ。せ。め。あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま

おのけり。そ。げ。う。い。ま。い。ま。い。母。の。た。め。は。い。ま。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
つ。き。ん。我。ゆ。へ。母。れ。る。い。ま。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
佛。神。三。三。三。も。さ。い。ま。あ。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
子。の。ま。い。は。は。い。ま。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
子。と。も。ゆ。へ。と。も。あ。い。ま。い。の。ら。ち。や。う。づ。う。ら。い。の。く。る。い。ま。あ  
と。記。す。は。三。人。れ。子。と。も。引。き。し。て。教。へ。り。も。の。す。ま。い。あ  
ゆ。き。あ。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
眼。六。波。羅。へ。あ。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
け。り。き。盤<sup>え</sup>。ま。う。は。所。へ。あ。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
り。る。う。し。も。身。よ。そ。い。ま。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
引。き。し。が。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ  
ら。ぬ。あ。い。ま。い。六。波。羅。へ。あ。い。ま。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ





此の世に生かすは、  
 こそと申す。去るは母の心、  
 ありてあはれなるを、  
 びらたぐれ、  
 子とて、  
 ちとて、  
 こころも、  
 あはれ、  
 その心、  
 うらやま、  
 君れは、  
 こそと申す。

らうも、  
 ちとて、  
 こころも、  
 あはれ、  
 その心、  
 うらやま、  
 君れは、  
 こそと申す。



後しりいすくいなをたかきんくもいふはさかきん  
か所よたあはるあをたかきんくもいふはさかきん  
きんよかきんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
くもせあひけり。二月廿日。あはれりうらひあはれんせあひて  
てうらひあはれり。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて  
あはれりうらひあはれんせあひて。あはれりうらひあはれんせあひて

茶室

三十一

はるうづにひのいれをききくおもすてせつきて。新  
 大納言をいよ。このときをみらぬ。さだれじやこら  
 ぬげやとこをぬ二人うちにしてをり。これ兩人をにら  
 じりりりりて。東に内より引すあり。すてよきをい  
 きこりけつと。法性寺の大あびり。この天皇弘仁に  
 年九月。右兵衛尉をもちをらむたりをちうせらむ  
 あり。きんわ保元文人のしとみり。大五代。年能三百四  
 十七年。のわひご死せぬ。二つをうとぬびんたりと。て  
 死さいとやめらむたりと。後白河の院をきまうよ。女納言  
 入の信西志のきんを討ちてあせりたてのひたりし。中二子  
 とて去り大納言あり。その身やうせちうせらむ。あう  
 うくをゆき。公卿はききいりきうとつじ。そのう人あや

あやいとれ。このういぬいよむれ。わきまにせんとせ  
 びとらうとやめ。せんはよやよ。せつせんとローさせ  
 らぬ。あとも大納言に任せつる。かじと。秘御同くロー  
 せり。大納言をいせとわし。國のあてきう。と長  
 河の國をみる。けつ。友外記に。ころく。左近の将監  
 とせつて。ころく。仲成禁所。よわひきととと。つ  
 あや。よまき。く。須と。ぬら。き。え。の。わ。く。や。り  
 ぬん。去。宿。よ。の。ん。こ。れ。ぬ。ん。が。り。次。中。よ。あ。つ。ま。て。君。も  
 つ。の。ひ。り。と。う。う。や。ま。せ。れ。信。西。が。よ。と。み。あ。り。わ。く  
 り。ぬ。ま。な。ほ。ま。り。り。と。い。つ。つ。た。信。西。あ。つ。せ。ら。る。か。つ。り。さ  
 ま。い。の。せ。ん。ん。と。あ。の。し。せ。ぬ。ひ。け。り。の。あ。り。る。こ。し。は。并  
 よ。れ。く。こ。ころ。う。つ。て。横。磨。れ。中。の。わ。り。ぬ。り。れ。を。い。せ。い



ひろれ八幡へそはらるまける。伏見の源中納言。三河の八幡  
らとわらうとく

書<sup>ゆ</sup>く<sup>ち</sup>一海おあつて三河乃八幡一返

わらふる一とはたもさうり一を

とよめれたりしとよ由<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>一とありてありてはたわらうとく  
とつた<sup>つ</sup>とせとぞはたせかりける。海<sup>う</sup>と<sup>と</sup>一とあはれとく  
ぞ。其後新大納言と雖もはたの國より入りて  
お大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
みら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
ひとれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
りたるうりけり。昔者よこれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて

はらるまける。使者の<sup>し</sup>と<sup>と</sup>一とありてはらるまける。使者の<sup>し</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
とつた<sup>つ</sup>とせとぞはたせかりける。海<sup>う</sup>と<sup>と</sup>一とあはれとく  
ぞ。其後新大納言と雖もはたの國より入りて  
お大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
みら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
ひとれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
りたるうりけり。昔者よこれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて

いれせゆも志はじやとあはれとく

たつと<sup>た</sup>と<sup>と</sup>一とありてたつと<sup>た</sup>と<sup>と</sup>一とありて

やとあはれとくはたせかりける。海<sup>う</sup>と<sup>と</sup>一とあはれとく  
ぞ。其後新大納言と雖もはたの國より入りて  
お大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
みら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありてみら公<sup>み</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
ひとれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて  
りたるうりけり。昔者よこれ大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて大由<sup>お</sup>と<sup>と</sup>一とありて



也。此書乃係由我皇祖神武天皇  
 御製。其書之始。係在神武天皇  
 御初。即神武天皇御初。即神武  
 天皇御初。即神武天皇御初。即  
 神武天皇御初。即神武天皇御初。  
 即神武天皇御初。即神武天皇御  
 初。即神武天皇御初。即神武天  
 皇御初。即神武天皇御初。即神  
 武天皇御初。即神武天皇御初。

神武天皇御初

神武天皇御初

也。此書乃係由我皇祖神武天皇  
 御製。其書之始。係在神武天皇  
 御初。即神武天皇御初。即神武  
 天皇御初。即神武天皇御初。即  
 神武天皇御初。即神武天皇御初。  
 即神武天皇御初。即神武天皇御  
 初。即神武天皇御初。即神武天  
 皇御初。即神武天皇御初。即神  
 武天皇御初。即神武天皇御初。

神武天皇御初

神武天皇御初

此項文書係在  
 一八九二年十月  
 間由某處人送  
 到該處官署之  
 一紙也其文大  
 意謂在該處之  
 某處有一秘密  
 會社其名為某  
 社其宗旨在於  
 謀殺君主及皇  
 后等語此項文  
 書係由該處某  
 人呈報政府者  
 也其文書之末  
 尾有該社之某  
 人署名云云

一八九二年十月  
 間由某處人送  
 到該處官署之  
 一紙也其文大  
 意謂在該處之  
 某處有一秘密  
 會社其名為某  
 社其宗旨在於  
 謀殺君主及皇  
 后等語此項文  
 書係由該處某  
 人呈報政府者  
 也其文書之末  
 尾有該社之某  
 人署名云云



ともくもせよとておぼせらるる世に天どうおぼのらしてはあ  
 よきとせぬよ。あなるともんとてまもむらうらあつら  
 しとぬらう。君もまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 よしおぼせらるるかぞとてはらせしむ。六十六りあり。あれ  
 一と両方れはよとてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 してまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 するともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 はゆともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 君よおつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 國とつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 るともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 ほともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて

おもひにまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 とつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 ほともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 した。おんぢが母れがまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 つともつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 たり。兵衛の佐助、おんぢの國あつてのたまもつてまもつてまもつて  
 腹也男子二人女子一人をまつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 めでおんぢがまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 りのおんぢがまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 ありまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつてまもつて  
 伊豆の國見や東西へわかれり。ちとくこつてまもつてまもつてまもつて



うしわつ真別くつむねゆ

さてとち記に後清盛といひて近所よりすく  
 くよれけつとそゆ。されはものちけりく三人はさいを  
 とれりきてあよいまわつあごまのかりお断てせん公  
 せんといとそりけり。さふぬれあつれよそあつせんとい  
 たり。中とつわつ八條のまよ候て。卿公園といと名れ  
 つ。方官法ゆそそたけけり。才うしわつらつあつこの  
 東光坊ゆをせんあんが弟子。せんせんがう何やこく  
 月つ才子よありて。まおあつとそりけり。十一れ年といわ  
 母れやゆをあ判て。後家れははるかんけつよ。げおと清和  
 天皇より十代のゆつあ六孫王より八代ぬぬれ後中り  
 えつよ。いあ入るよりうづ子八幡太三郎より候りまひ

東光坊

清和









ておぼやかしういふとせせぬその河上野に園松舟田や  
 の所よいころもさしきりつるよ。あつたれはさしきりつる  
 ぬよ大うながれとねほこされはちり家とせめたるま  
 けりしはつらひもあつた。伊勢の園に自代よつきて上  
 野のつらひけるが女よ付て、あまはるるまの伊勢の  
 三つらひさしきり。我多かしのつらひるまの。義れ字  
 多うらふせとさしきりつるまの付あつた。あつた  
 とつらひつるまのさしきりつる









ひつらひつらとてしるしめしむるは、  
ける。予も其れが人もあらずに、  
夫れいふ事も、身命を以てして、  
たれしあはれも、不義の事なり、  
き事

みれに、つらつらとて、  
あつらひ、  
と、  
きたりし、

はどあつて、あまふれ、  
三勇者、仁義、  
勇も、  
れ、  
ゆ、  
そ、  
謙倉、  
れ、  
あ、  
ら、  
よ、  
い

らん松金<sup>らうきん</sup>とてゆかうー<sup>一</sup>もせむとて下<sup>か</sup>しむく  
ちり賊<sup>あつか</sup>なりとてい<sup>い</sup>はれしむるをまてその  
むげりその可<sup>か</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
共<sup>こ</sup>働<sup>わ</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
天<sup>てん</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>

年<sup>ねん</sup>三<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
又<sup>また</sup>奥<sup>おく</sup>列<sup>りやく</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
言<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
建<sup>たて</sup>文<sup>ぶん</sup>元<sup>げん</sup>年<sup>ねん</sup>十<sup>じゅう</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
出<sup>い</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>

辨論

四十七









とす人かゝりおれやうらんごうかりん地とてさうして。武士  
 のさむらひよ。さむらひのあつたまにさうさうさうさうあつた  
 はすぐ。ゆきれいさうさうさうさうさう。せい兵將軍れの人をんを  
 うかり。おの東の方二支の中のおのひさし。て。仲春さう  
 さうさう。柳（やなぎ）おのま也。春れさうさうさう。天道あつた乃  
 ちもさひさうさうさうさうさう。柳（やなぎ）葉のさうさう  
 さおれすれ人。けいさうさうさうさうさう。

平治物語巻第三終

于時寛永三ノ年丁長月吉辰

